

人びとが創るもうひとつのアジア

ハリーナ

HALINA

no.45 2020年8月

【特別報告】

コロナ禍を生きる

——民衆交易の現場から



日本・沖縄県国頭郡大宜味村
儀保 昇さん(65歳)
Gibo Noboru

〔写真・文〕
野川末央／のがわ・みお
APLA事務局

山原と呼ばれる沖縄島北部で自然農法の野菜づくりと平飼い養鶏を営む儀保昇さん。生産した野菜や卵は「やんばる七色畑ネットワーク」というグループで、消費者に直接届けています。

畑をフェンスで区切り、放った鶏に雑草を食べ尽くしてもらい、糞によって肥沃なった土地で季節に合った作物を育てます。そして鶏たちはお隣に移動させてまた雑草を食べてもらう(広いエリアではヤギも活躍)という方法によって、草取りをすることはほとんどないそうです。循環を基本とし、あるものを活用するという創意工夫にあふれた農園はいつ訪問してもワクワクします。

母屋と作業小屋の間にある池は、30年近く前にこの場所で農園を始める時に、儀保さん自身が石をひとつずつ積み上げて自作したビオトープ。台所、トイレ、お風呂からの排水は浄化槽を通してすべてこの池に流れ込み、微生物によって分解され、農業用水として再利用されます。そして、池に茂ったホテイアオイは鶏の緑餌に。

「自給しなければ、よその国から奪うことになる。生活と生産と平和はすべて揃ってひとつ」とお話される通り、若い頃から反戦運動に参加してきている儀保さんは、現在でも辺野古や高江に最低でも週一回は通い続けています。儀保さんたちが基地に反対する行動に費やしているその時間を農園での仕事に思う存分充てることができたら……と思わずにいられませんが「でも、辺野古や高江のことがあったから出逢えた人たちがたくさんいるからね」と語る儀保さん。私自身もお知り合いになれたことに感謝の気持ちでいっぱい、「援農」という名目で儀保さんの農園に様々なことを学びに行かせてもらうのを毎回楽しみにしています。



ここではこれからエンドウマメが育つ。鶏はもうすぐ隣にお引越し。



ビオトープに茂ったホテイアオイを刈り取って鶏に。



やんばるの森から切り出してきたシイの木で原木しいたけも栽培。

近 所に中華料理屋がある。雑居ビルの二階にあって、中国人のご夫婦がやっている。味はフツ―だが、店主が人懐こい感じがして気に入っている。餃子1皿190円のタイムセールが22時まであったり、お得なランチセットを夜も提供していたり、メニューにない炒め物を勧めてくるのに値段を決めていなかった

り、頼んでいない杏仁豆腐をデザートに持ってきたり、とにかく客としては嬉しいハプニングが連発だ。「儲からないねえ」が口癖だが、商売っ気がないのではない。儲ける気満々なのに、商売が下手なのだ。去年の今頃、緑が萌えるとても気持ちのいい季節に事件は起きた。開店前のお店から大喧嘩する声が聞こえてきた。おかみ

さんの声だ。まもなく何かが盛大に割れる音が外まで響いた。店内は覗けなかったが修羅場と化していたにちがいない。「来年、タピオカ屋に変えようかと思ってます」。大きな台風が過ぎた頃、店主が呟いた。タピオカミルクティー屋さんが乱立していて、隣の芝が青く見えたのかもしれない。いまだタピオカを始めてもきびしいだ

ろう、しかも露店でなく雑居ビルの二階でとは、とても言えなかった。「これは当たる」と、店主がしたり顔で呟いていたからだ。自肅が騒がれる今年の4月。飲食店は本当に大変だろうと思っていた矢先、店主は小さなテーブルを出して店先に居た。中華のテイクアウトかと思いきや、テーブルの上には、マスクが並べられていた。「マスク50枚2950円」、コピー用紙にマジックで書かれたポップが素っ気なく飾られていた。「ちょっとこれ、始めてみることにしました。テスト、テスト」。テストの結果が芳しくなかったのか、程よく在庫が売り切れたのか、この原稿を書いている5月

には店先の小さなテーブルは消えていた。同じようなニュースが流れ、SNS疲れもひろがり、なにかと不安定な日々なかで、近所の中華料理屋は安定した商売下手さを發揮して、今日もしくとく営業している。そんな中華料理屋のしづとさを見るにつけ、タピオカ然り、コロナ然り、世界の変化とつながっているのだな。さらに「このしづとさはレジリエンスのことなのか!?」なんてことまで思いを巡らせてニヤニヤしてしまふ。

さて、近所の中華料理屋がこの次に何を起こすのか、それは世界の何とつながっているのか。近所には新しい発見であふれている。■

近所の中華料理屋のこと

下田寛典／しもだ・ともり
合同会社P.L.C代表

RELAY ESSAY

ぽこぽこ

POCO POCO

45



Contents

02 【ぽこぽこ 45】
近所の中華料理屋のこと◎下田寛典

03 【百姓 オブザワールド 08】
日本・沖縄県国頭郡大宜味村
儀保 昇さん
〔文〕野川末央

04 【特別報告】
コロナ禍を生きる
―民衆交易の現場から
フィリピン、ネグロス／ミンダナオ◎インドネシア、東ジャワ／南スラウェシ◎インドネシア、パプア◎東ティモール◎パレスチナ

09 【COLUMN】
〔東ティモール見聞録②〕
東ティモールの猫と乗り物にまつわる
タブー◎松村優衣子
〔続 まだまだ韓流②〕
『怪しい彼女』◎蓼田瑞恵

10 【Topics】
01-「やさしい日本語」で外国人ママに
寄り添う◎出口雅子
02- カムイチェブ(ニサケ)に対する
アイヌ民族の権利回復を◎小泉雅弘

12 【PtoP“最前線”】
甘いはず
―マスコバド糖のおいしさの秘密
◎樹オルター・トレード・ジャパン広報室

14 【Voice from APLA partners】
From South Sulawesi, Indonesia
エビ生産者による環境保全活動が始動
From Mindanao, Philippines
ミンダナオ島コタバト州の地震被災地を訪問

15 事務局だより

16 【撮っておきアジア】
パレスチナ◎豊島 洋

表紙のことば

24年前にタイで出会った、バナナの葉をモチーフにした反物。

車でカンチャナブリーに向かう道沿い―舗装されていない土の道―にあった小さな苗屋さんで見つけた。植物は屋外に、簡素な木造の店内に民芸品があった。コショウやマンゴーの苗、色鮮やかな花々、竜舌蘭のような大きな植物……。日本では熱帯植物園でしか見ることのできない植物たち。店の裏では、大きなバナナの木の下で、太い竹を竹割器で手際よく割っていく二人の若者。「床になるのかな?私もいつか作ってみたい!」と思った。

土と植物と人。バナナの花や実は食べられるし、葉は皿や蒸し器にもなる。茎は時として橋になる。自然の中にある本来の暮らし。自然から離れては、生き物(人間も)は生きられない。ICT環境を整えるより、きれいな空気、水、土、自然のあるべき姿が循環するような暮らしを整えていきたい。(一反百姓「じねん道」斎藤裕子)

コロナ禍を生きる 民衆交易の現場から

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大がまだ収束の兆しを見せないなか、民衆交易の現場では、生産者たちはどのような日々を送っているのだろうか。APLAやATJのスタッフが現地を訪ねて見通しは立っていないが、各地のパートナー組織からそれぞれの状況を伝える報告が届いた(情報は6月半ば時点のもの。感染拡大をくいとめるための対応や予防策を様々な工夫し、暮らしを守るための努力を重ねている様子が伝わってくる。〔編集部〕)

フィリピン ネグロス／ミンダナオ

フィリピンでは、累計感染者数2万6781人、うち死者数1103人。ネグロス島における感染状況は、感染者数64人、うち死者数6人。ミンダナオ島における感染状況は、感染者数773人、うち死者数48人(6月16日時点、フィリピン保健省)となっています。

2020年3月15日より、マニラ首都圏での強化されたコミュニティ隔離措置(ECQ＝通称「ロックダウン」)が適用されて以降、国内全土にECQを広げ、感染症拡大



村の検問の様子。隣町からの進入を防ぐ。

を防ぐための対策がなされてきた。ECQは警戒度によって4段階のレベルに分けられており、地域別にそのレベルが定められて



町の市場の様子。整列してアルコール消毒してから入る。



バナナを運ぶトラックに貼られた通行許可書。(ミンダナオ島)

います。措置レベルが高い地域では、主に①18歳未満と60歳以上の者の条件付外出禁止(一部地域で年齢制限は異なる)、②全住民に対して夜10時から朝4時までの外出禁止、③各家庭に1枚の「外出許可書」を配り、各家庭1名のみ、食品などの生活必需品を購入するための外出を認めるといった措置がなされました。ショッピングセンター、飲食店、教会など多くの施設は閉鎖され、営業を許可されたのは、雑貨店、薬局、銀行、一部の飲食店に限られました。国の社

会改善プログラムとして、3月と4月に毎月2回の食料配給(お米、インスタント麺、缶類など)もありました。地域によっては粉ミルクや鶏肉の配給もあったそうです。

**コロナ禍における
民衆交易パートナーの状況**

これまでに民衆交易パートナー、またはその家族において感染が確認されたとの報告はありません。3月30日から4月15日までオルタナティブ・フィリピン社(ATPI)は、事務所があるネグロス西州の措置警戒レベルが引き上がったことを受けて、約2週間にわたる事務所を閉鎖しましたが、マスコバド糖とバランゴンバナナの事業は生産者の収入面においても重要であると考え、収穫や買い取りなどの現場での業務は継続しました。

「マスコバド糖」

また、政府からの補助金として、各家庭に6000ペソ(約1万3000円)の支給もあったそうです。3月から5月はサトウキビの収穫シーズンであり、例年収穫を手伝ってくれる人を他の村や町からも雇いますが、外出制限によりそうした人たちが畑に来ることが出来ず、人員不足や収穫時期の遅れによる品質の低下に悩まされました。

5つあるマスコバド糖生産者組合は、ECQに伴って行動が制限され、収入が落ち込むことを懸念して、ヨーロッパとのフェアトレードによって貯めてきたプレミアムを使い、隔離措置開始直後の3月中旬に、各生産者にお米や干物などの食料配給を実施しました。また、政府からの補助金として、各家庭に6000ペソ(約1万3000円)の支給もあったそうです。3月から5月はサトウキビの収穫シーズンであり、例年収穫を手伝ってくれる人を他の村や町からも雇いますが、外出制限によりそうした人たちが畑に来ることが出来ず、人員不足や収穫時期の遅れによる品質の低下に悩まされました。

「バランゴンバナナ」

バランゴンバナナ事業では、地方自治体間の移動の取締まりが厳しいため、バナナの輸送とスタッフの移動の問題に悩まされました。ネグロス島では、州境に位置しているネグロス東州の一部の自治体の移動制限が厳しく、東州で収穫後に箱詰めしたバナナを西州の港に運ぶのに苦労しました。通常は西州からトラックで取りに行くのですが、トラックの移動制限が厳しかったため、州境でトラックからトラックへの積み替え作業で対応しました。

ミンダナオ島南部・南コタバト州のレイクセブでは、2019年

にバナナの苗の植え付けを増やしたため、今年の生産量は増大していたので、ECQ下においても買い取りが継続されたことを生産者たちは喜んでいました。町の多くの市場は閉鎖してしまったため、

3月から5月まではバナナ以外の野菜や果物などを買うに来る仲間人がおらず、農村部から町へ行くトラックの数もとても少なかったとのこと。そのため、今年のバランゴンバナナの作付け面積の割合を他の作物に比べて増やした生産者が多くいます。

ECQの影響を一番大きく受けた産地は、ミンダナオ島・北ミンダナオかもしれません。このエリアのパッキングセンターでは、3つの地域からスタッフが通勤しており、中には州をまたいで移動をしているスタッフもいます。外出制限により、そのオペレーションの継続が難しくなり、6週間の出荷停止を余儀なくされました。



KF-RCのFacebook投稿。農産物の写真をアップして、注文を受け付けている。

スタッフたちは支援を待つだけでなく、可能な限りの販売努力とともに、支出を抑えるために豚の餌の内容を見直しました。豚が売れないで支出ばかりかさむのならばと、検疫所で働いている地域の人たちのために無償で豚肉を配給したり、Facebookで肉や野菜の注文を取って、後日配達をするデリバリーサービスをしたり、この状況乗り越えようと話し合いを重ね、新たな挑戦を続けています。

州を越えての移動のための許可書取得が難しかったためです。

カネシゲファーム・ルーラル キャンパス(KFRC)における 影響と対策

ネグロス西州にあるKFRCでは、養豚事業に大きな影響がありました。通常であれば子豚や大きく育てた肥育豚を市外から買いに来るお客さんたちが移動制限のために農場に来ることができなくなってしまうことや、市内の肉屋や家畜市場が休業しているためにKFRCとしても売り先を探すことが難しかったため、収入は激減しました。しかし、売れ残っている豚は飼育し続ける必要があります。餌代が増大しました。それを受けて、APLAから、当面の豚の餌代として15万ペソ(約33万円)をKFRCに対して支援しました。

スタッフたちは支援を待つだけでなく、可能な限りの販売努力とともに、支出を抑えるために豚の餌の内容を見直しました。豚が売れないで支出ばかりかさむのならばと、検疫所で働いている地域の人たちのために無償で豚肉を配給したり、Facebookで肉や野菜の注文を取って、後日配達をするデリバリーサービスをしたり、この状況乗り越えようと話し合いを重ね、新たな挑戦を続けています。

インドネシア 東ジャワ／南スラウェシ

KFRCの卒業生たちも多少なりとも影響を受けているものの、それぞれの養豚の規模も小さいこともあり、緊急的に支援が必要な卒業生はいませんでした。卒業生たちの家庭では、お米をはじめとして自給している食料の蓄えがあ

インドネシアにおける新型コロナウイルスの拡大は、首都ジャカルタから始まり、そこから各地に広がったと考えられています。2020年3月31日付大統領令において公衆衛生緊急事態が宣言され、新型コロナウイルスへの迅速対応における大規模社会制限に関する政令が發布されました。具体的には、学校の休校、職場の業務休止、宗教活動の制限、社会文化活動の制限、交通手段の制限など、細かく定められています。

6月17日現在、新型コロナウイルスによる全国の感染者が3万8277名、死者2134名と広がっており、政府は国内の移動制限(陸路、空路、海路の旅客の往來を原則禁止)や、夜間の営業禁止など、厳しい措置を取っています。しかしながら、飲食産業に関しては、パンデミック世界的な感染爆発下においても「健康を守るためのプ



地域住民によって閉ざされた養殖池に入る道。(シドアルジョ)

ロトコール(規定)を適用したうえで、業務継続は可能である、という産業大臣の決定があり、オルター・トレッド・インドネシア社(ATINA)でも、加工工場のすべての部門で規定をしっかり守りながら操業を継続しています。

生産者としての コミュニケーションを大切に

COVID-19の拡大は、水産業を含めて各界に多大な影響を及ぼしていることは紛れもない事実です。しかし、エコシリンプの養殖池

における技術的な問題はまったくなく、エコシリンプの生産者は通常通り、養殖池での生産・収穫を続けてきています。一方で、感染拡大を防ぐための地域における防疫対策は強化され、各地の生産者たちは養殖池エリアへの外部者のアクセスを制限し、基本的に地元住民(生産者)しか入城できないようにしています。けれども、ATINAの監査員は例外として、養殖池を訪ねることを認められています。必ずATINAの制服を着用し、身分証明書を所持して地域の検問を通過することがルーティーンになっています。当初、外部からの来訪者を嫌がる生産者もいましたが、ATINAは地域の生産者のリーダーと協議し、エコシリンプが事前監査がルールであることをあらためて理解してもらったうえで、監査員による養殖池の訪問と監査を実施しています。

生産者にとっての障壁は、優良な稚エビの入手がしづらくなっていることです。品質の良い親エビはアチュ(赤)から届いています。COVID-19のパンデミックによって、多くの飛行機の運航中止や減便が続いており、いつも通常に戻るかはわからない状況です。また、シドアルジョにある多くの工場が、市場からの需要が止まったことで、操業を減らしたり、止めたりせざる

るを得なくなりました。当初は、こうした一般的な状況を見て、一部のエコシュリンプ生産者は、自分たちが収獲したエビも買ってもらえないのではないかと、いうようなパニックに陥った人もいました。しかし、ATINAはすぐに各地の生産者とコミュニケーションをとりました。東ジャワのシンド

アルジョとグレンシックでは、監査スタッフが生産者を訪問し、また、南スラウェシのピンランでは、オンラインビデオ会議ツールを活用して、通常通りのスケジュールでエコシュリンプの買い付けを実施することを説明したので、生産者の不安はすぐになくなりました。



ATINAの工場敷地内に入る前には丁寧な手洗いが必須。

南スラウェシでの 買い付けを休止

しかしながら、5月中旬、スラウェシ島のマカッサルとジャワ島のスラバヤを結ぶ飛行機の運行が突然止まるという事態になり、(ATINA工場まで航空便でエビを輸送しているため)ピンランでのエビの買い付けを休止せざるを得なくなっていました。当然ながら、ピンランのエビ生産者たちは大きな不安を感じていますが、どうしようもない状況であるということには理解を示してくれています。ただ、残念なことに、ATINA

インドネシア パプア

パプア州全体では感染者数1211名、その多くは、カカオキタが活動するジャヤプラ県に集中(854名)しています(6月12日現在)。ジャヤプラ県では、医療施設が十分でない事もあり、3月から空港と港を封鎖するなど、早めにCOVID-19対策を進めています。市場などの人が集まる場所でもクラスターが発生しています。

カカオキタ社の事務所がある町の大通りでも、COVID-19対策の啓蒙のためのバナーが至る所に掲げられ、町中の食堂、商店、スー

の買い付けがストップしてしまっで以降、養殖池からエビが盗まれるという事件が発生しているとの報告も届いています。

このように、エコシュリンプの生産者も直接的、間接的な影響を受けていますが、生産者と消費者の関係性をより強くすることで、共にCOVID-19の世界的パンデミックの時代を乗り越えたいと強く思います。

【報告】ATINA○ヘンドラ・グナワン(抄訳:野川未央)

スマトラ北端に位置し、西はインド洋、東はマラッカ海峡、北はアタマン海に面している。2014年12月に発生したマトラ島沖・津波では約13万人もの死者数が出るほど、甚大な被害を受けた。

パリの入り口には、臨時の手洗い場所と石鹸が設置されています。スパーをはじめ商業施設の入り口では警備員による検温と手の消毒を求められ、予防対策はかなり徹底しています。

この間、政府により午後2時以降の外出・移動規制が出されてい



SNSでキャンペーンを告知。

若手主導で キャンペーンを展開

また、カカオキタでは生産者の生産物(カカオ、マンゴー、野菜など)を使ったアイスクリームやお菓子の製造・販売を行うカフェのオープンに向けて準備を進めてきていましたが、COVID-19対策のために、飲食はまだ始めることができていません。それでも、アイスクリームやお菓子の持ち帰り販売を積極的に行なっています。カカオキタの若手スタッフと地域の起業家やNGOとがつながり、COVID-19予防を兼ねたアイスクリームの販促キャンペーンの活動を展開してきました。

このキャンペーンは、カカオキタのチョコレートアイスクリームを購入してもらいと、市場で働く女性たちに石けんやマスクを寄付するというもので、カフェのスタッフやSNSでつながった仲間たちがキャンペーンを立案し、製造

ため、カカオキタのスタッフたちも生産地の村でのカカオ豆の買い付けは、早朝に出て昼過ぎには戻るという形を取り、午後の活動を休止していました。村での生活には何も変わりがないことが確認できていましたが、6月に入り規制が緩和されたことから、町の人びとの暮らしも徐々に通常に戻りつつあります。

や配達まで分担して作業しました。

キャンペーンの効果もあり、1ヶ月で過去最高の約2000個のアイスクリームを売り上げ、5月16日、キャンペーンスタッフ全員で州都ジャヤブラにある Pasai Mama Mama (お母さんたちの市場)を訪れて、そこで働く女性たちに石けんを配布しました。また別の日に、教会で布マスクを配布しま



カカオキタ事務所でキャンペーンの打ち合わせをするスタッフたち。



市場で働く女性たちに石けんを手渡す。

した。
カカオキタカフェのマーケティングを担当するアプリは、「コロナウイルスの脅威が広がるなか、人びとへの啓発と感染の予防に貢献できるうえに、カカオキタの売り上げにつながる Win-Win のモデルになれば嬉しい」と話しています。

【報告】カカオキタ○義村浩司

東ティモール

東ティモールでは2020年3月27日に1カ月の期限付きで非常事態宣言が発令され、28日から、移動、5人以上が集まること、不要不急の屋外での活動、宗教行事や慶行事が制限されました。学校もすべて休校となっています。その後国会で2度の延長が通り、

6月中旬現在も非常事態宣言下にあります。

独立から今年で18年目を迎える小さな島国、東ティモール。医療インフラに限りがあること、隣国インドネシアで感染が拡大していることなどから、感染拡大を防ぐための措置が続いています。

APLAの現地スタッフや首都デイリ在住の松村さん(コラム担当)から話を聞く限り、非常事態

独立から今年で18年目を迎える小さな島国、東ティモール。医療インフラに限りがあること、隣国インドネシアで感染が拡大していることなどから、感染拡大を防ぐための措置が続いています。

コーヒー産地では

エルメラ県のコーヒー産地からは、町で週に1〜2度開かれる定期市が開催されないことで、自分たちが作った野菜を売る場所がなくなる、生活に必要な日用品やお



コーヒーを買い付けるトラックで物資を運ぶ。



レテフォホ郡エラウ口村レキサラ集落のコーヒー生産者グループ。

米などを購入することができない、といったことから、大きな不安を感じているという声が届いてきていました。これに対して、現地のオルター・トレード・ティモール社(ATT)では、5月前半に667世帯に米、食用油、石けんの支援を実施したそうです。コーヒーの買い付けに使うトラックにデイルで購入したそれらの物資を積み込み、エルメラ県内各村のコーヒー生産者グループに運ぶ様子の動画は、オルター・トレード・ジャパン(ATTJ)のウェブサイトでもご覧いただけます。なお、エルメラ県ではコーヒーの収穫シーズンが始まりました。生産者が収穫・

加工したコーヒーの買い付け、輸出という一連のプロセスに大きな影響が出ないことを心から祈るばかりです。
APLAは、この間、コーヒー生産者地域での作物の多様化やエルメラ県内の効率学校での学校菜園・環境教育活動が続けてきましたが、非常事態宣言下においてはデイル在住のスタッフが移動することも難しく、活動は休止せざるを得ない状況が続いてきました。現在状況を見ながら、スタッフたちは活動を再開させる準備を進めています。(まとめ:野川未央)

https://altertrade.jp/archives/202008

パレスチナ

オリブオイルの産地であるパ

レスチナでも3月5日、キリスト生誕の地として知られるベツレヘム市で初の新型コロナウイルス感染者が確認されました。パレスチ

東ティモール見聞録



義妹宅の猫、ブラドくん。

このように、猫の扱いに注意は必要ですが、東ティモールでもネズミ捕りなどのために猫を飼う家は少なくありません。我が家にも出入りしている猫が数匹いて、ご飯をねだりに来てくれるのが日々の楽しみの一つです。

02

松村優衣子／まつむら・ゆいこ
通訳

東ティモールの猫と乗り物にまつわるタブー

世界各地で猫は「神秘的」「不吉」「縁起物」などと言われていますが、東ティモールでも「猫には特別な力がある」と広く信じられていて、特に猫と乗り物に関するタブーが幾つかあります。

例えば、車やバイクなどの乗り物に猫を乗せると事故に遭う、と信じられています。そのため、特にバスやタクシーに猫を乗せるなどということは、まず受け入れられません。しかし、東ティモールに住む、とある外国人は、このタブーを知らずに、出先で子猫を拾い、家に連れて帰ろうと子猫を上着のポケットに入れてバスに乗ってしまいました。すると、子猫に気づいたバスの運転手はもちろん、乗り合わせた他の乗客からも「猫を乗せるなんて！ 死にたいのか!？」と、すごい剣幕で怒ら

実施してきました。最初に実施した活動は、感染予防の対策です。消毒薬や石けんなどを詰めた衛生キットを1490セット配布し、医療NGOと協同で農民、女性、子どもを対象にした感染予防セミナーを開催しました。農業用ポンプを使って貯水タンクや公共施設の消毒もしています。

ロックダウンが継続すると、ベツレヘム市をはじめとする都市住民は食料、特に野菜不足に悩まされました。食糧難に直面したのは都市住民だけではなく、農民や遊牧民（ベドウィン）は野菜や家畜、乳製品の販売が出来なくなり、収入の道を閉ざされました。都市部では食糧不足が深刻化している一方で、農村部では野菜が収穫されずに腐っていくという皮肉な現象が起きているのです。



「希望と奉仕のトラック」。



種子銀行で野菜の苗を増産。



ペットボトルをプランターとして活用。

「土地に戻って耕そう」

こうした事態のもと、ベツレヘム市民からの支援要請を受けたUAWCはヨルダン川渓谷や北部の農民に相談し、3月23日、「希望と奉仕のトラック」と名付けた4台のトラックで計30トンもの野菜を運び、配布しました。PARCはエルサレムやラマッラーといった主要都市だけでなく、ヨルダン川渓谷の農村部でも野菜23トンの配布を行いました。また、海外のフェアトレード団体や人道団体に協力を呼びかけて1500家族にフードバスケットを提供しました。

野菜などの農産物が市場に出回

らないという状況に対して、パレスチナ自治政府や農業関係団体は、「100万本の野菜の苗を植えよう」という呼びかけを開始、これに呼応してUAWCは「土地に戻って耕そう」キャンペーンに取り組みます。UAWCは2003年、ヘブロンに在来種の種子銀行を設立し、パレスチナの気候風土で育まれた在来種の保存と普及に取り組んできました。短期間で育つキュウリ、ナス、トマト、オクラ、ズッキーニ、カボチャ、インゲン、スイカなどの夏野菜の苗を育て、約3000家族に配布しました。庭や空き地、土地が狭い都市や難民キャンプでは屋上やベランダなど、住民は空間があればどこでも工夫して菜園を作っています。農業技術者が種子の配布と一緒に栽培方法を指導したこのキャンペーンは、自家消費用の新鮮な野菜が手に入った、野菜を購入する支出が減り家計の助けになった、子どもが農業への興味や関心を高めたなどと大好評で、配る苗が足りなくなりました。そこで、種子銀行の職員が残業して生産能力を倍増させ、最終的に40万本の苗を配ることができました。

コロナ経験がもたらした教訓

2017年の統計によると、パレスチナはイスラエルの農産物の最大の輸出先の一つとなっており、

イスラエルからパレスチナへの農産物（主に野菜と畜産物）の輸出額は、パレスチナからイスラエルの約6倍にのぼり、イスラエルの農産物がパレスチナ市場に溢れかえっています。皮肉なことにパレスチナは食料をイスラエルに依存している状況なのです。

「土地に戻って耕そう」キャンペーンは、地域で農民と住民が協力して自ら食料を生産、消費する仕組みをつくることを長年めざしてきたUAWCの方針に基づいて実施されています。UAWCのフアド・アブサイフ理事長はこう話します。

「土地や水といった生産手段や市場をイスラエルに奪われ、自給出来ないという脆弱なパレスチナの食料システムが、コロナ禍をさらに深刻なものにしてしまいました。UAWCもメンバーである国際的な農民団体、ビア・カンペシーナが提唱する食料主権、つまり、農民や消費者が何を育て何を食べるかを自ら決める権利を守ることこそがすべての人びとの食料を保障することだと考えます」と述べ、こう話を締め括りました。「食料主権こそ、本当のパンデミックであるイスラエル占領に対抗する効果的なツールです。だからこそ、私たちは野菜を植えるのです」（まとも・小林和夫）

続 まだまだ 韓流

02

荻田瑞恵／みのだ・みずえ
KAJA会員



©2014 CJ E&M Corporation, All Rights Reserved

『怪しい彼女』(韓国) Miss Granny
【監督】フアンドンヒョク 【出演】シム・ウンギョン、ナム・ムニ他
本作のヒットを受け、日本、中国、ベトナム、と3カ国でリメイクされたことから、当時の売れ具合が推し量れるだろう。脚本・演出の良さがもろろあるのだろうが、オリジナルの韓国版は、何と言っても主演シム・ウンギョンの演技力と本人自身の魅力に拠るところが大きいと思う。彼女は昨年、日本アカデミー賞で主演女優賞(邦画「新聞記者」)を獲得したため、韓国映画をあまり知らない層においても知名度がグンと上がったのではないだろうか。

物語は、大学教授の息子だけが我慢という祖母ハルモニが、同居の嫁に疎まれ、家族のお荷物となっていることに気づくあたりから展開していく。寂しさを覚えたハルモニは、ふと古ぼけた写真館を訪れるが、そこから外に出ると何と20代の自分の姿に戻っていたのである！ 焦るハルモニは、仕方なく他人を装って家族や知人らに近づき……。

シム・ウンギョンは、中身が70代

本作を観てシム・ウンギョンのファンになった方には「サニー永遠の仲間たち」(2011)という映画も薦めたい。彼女の「怪しい」演技を楽しめること請け合いです。

調の曲のシーンでは、何とも言えない哀愁の表情を映しつつ、しみじみと歌声を心に染み渡らせてくれる。ポップで明るい曲も出てくるが、それもなかなか悪くない。全てシム・ウンギョン本人が歌っているらしく、そこでも彼女の魅力満開である。若返ったハルモニと音楽プロデューサーのちよつと淡い恋を背景に面白おかしく進みつつも、家族に対する愛情、母・祖母としての思いが溢れていて、ちよつと泣ける話でもある。見終わって、ぽつと心が温くなるようなそんな映画である。

本作を観てシム・ウンギョンのファンになった方には「サニー永遠の仲間たち」(2011)という映画も薦めたい。彼女の「怪しい」演技を楽しめること請け合いです。

「やさしい日本語」で 外国人ママに寄り添う

出口雅子／ぐぐち・まさこ

ピナット～外国人支援ともだちネット、APLA会員

ぐ うれん知り合ったご近所の外国人ママ。日本での子育てはさぞ心細いだろうと気になる鈴木さん。勇気を出して話しかけるも、「ご出身は？」と聞いても、「お国は？」と言ひ変えても、どうも通じない。「あのね……くに、どこ？」で、ようやく「アー！ ワタシ、フィリピン」と笑顔が返ってきた。そこから二人の「やさしい日本語」を通じた素敵な交流が始まります。

これは一人の日本人女性と二人の外国人女性の出会いを描いた紙芝居『となりママは外国人!?』の一場面。作成した「ピナット」外国人支援ともだちネット」は、東京都三鷹市にある保育園を活動拠点に主に外国人母子を支援するボランティア団体です。三鷹市は外国人住民の割合が約2%とそれほど高くなく、行政や学校も外国人と関わる経験が少なかったり、外国人同士のつながりも弱く、外国人ママが孤立しがちな地域です。ピナットでは、そんな外国人女性たちが安心して子育てできるよう日本語を学んだり、生活や子育ての相談ができる場をつくつ



ピナット日本語教室の様子。

てきました。

日本語教室から広がった活動

最初の活動は日本語教室。そこでさまざまな子育て相談にもいる中で「宿題を見てあげられない」という声が増え、「子ども学習支援教室」も開講。さらに、子どもが日本語も母語も十分に習得できない「ダブル・リミテッド」の問題を知り、就学前の子どもを持つ外国人ママと子育て言語について考えようと国際ママ交流会も始まりました。

これらの活動の中で、さまざまな相談が寄せられます。「親子広場の利用登録の日本語が分からない」「学用品の買いも

のが分からない」など、誰かが同行してあげることで解決する悩みごとも多いです。そこで2016年度から個々のニーズにきめ細かく対応するための「寄り添い同行支援」も始めました。このように活動は広がりましたが、一方でピナットのメンバーだけでは対応しきれなくなっ

外国人ママに寄り添う人を増やす

「寄り添い同行支援」は、地域情報や学校に関することが中心で、相手の日本語力に合わせた「やさしい日本語」で行っています。外国語能力や専門知識はあまり必要なく、比較的誰でもできるものではないかと目頃から思ってきました。また、外国人ママたちもピナットまで行かなくても、近所に相談できる人がいた方が安心、とも考えていました。民生委員やPTAの方から「気になる外国人ママがいるんだけど……」と相談を受けることも増えていました。

それならば、気になりながら関わり方が分からないと感じている方に、関わるヒントを伝えよう！と考え、冒頭で紹介した紙芝居づくりが始まったのです。ストーリーづくりのワークショップから何度かの試作を経て、14場面・上演時間約12分の作品に仕上がりました。

この紙芝居は、子育て関係団体の集まりや児童・民生委員の研修会などで上演してきたほか、ウェブサイトでも公開し

ています。今年5月の「ステイホーム」期間には、感想文コンテストを実施し、大学のオンライン授業でも活用してもらいました。

「やさしい日本語」の心遣い

かつて過ごしたマニラでは、タガログ語初心者の方に合わせて、英語も交えゆつくり話してくれる人が多かったように思います。フィリピンの人は、幼児から高齢者まで同居する大家族の中で、相手に伝わるよう話し方を工夫することに慣れているのでしょうか。さりげなく私に合せてくれることで、私は会話を楽しむことができましたし、何より受け入れられているという安心感があつたように思います。

三鷹でも、外国人ママたちが孤立しないよう、近所の人たちが「やさしい日本語」で声かけすることの大切さや、そこから生まれる交流の楽しさを多くの人に知っていただきたいと願っています。■



紙芝居はピナットのホームページからダウンロード可能です。
ピナット～外国人支援ともだちネット
<https://pinatmitaka.wixsite.com/pinat>

カムイチェプ(サケ)に対する アイヌ民族の権利回復を

小泉雅弘／こいずみ まさひろ

NPO法人さっぽろ自由学校「遊」・事務局長、アイヌ政策検討市民会議・運営委員

長 年、紋別で漁師をしてきた畠山敏さん(78歳)は、10年ほど前からアイヌ民族の漁業権やサケ・マスの資源管理権を日本政府や北海道知事に訴えていた。

サケはアイヌ語でカムイチェプ(神の魚)ないしシベ(本当の食べ物)と呼ばれ、アイヌ民族にとって主食ともいえる食べ物であり、重要な交易品でもあった。しかし、明治になると、政府はそれまでアイヌ民族の生活圏であった土地を一方的に日本の領土としてしようとするとともに、産業資源としてのサケに注目し、その保護を名目にアイヌ民族が行ってきた河川でのサケ漁を次々と禁止していつてしまう。そして、その状況は、今も全く変わっていない。日本では、水産資源保護法という法律によって、河川でのサケの捕獲はいまだに全面的に禁止されたままである。

アイヌにとって特別な魚であったサケを迎える伝統儀式(カムイチェプ・ノミ)も一旦は廃れたが、1980年代以降のアイヌ文化復興の動きの中で、札幌を皮切りにいくつかの地域で復活していった。

紋別もそのひとつである。

儀式に必要なサケの捕獲については、道に特別採捕の許可申請をすること、決められた尾数のみ捕獲が許されていた。しかし、この許可申請には地元漁協やサケ・マス増殖事業協会の同意も必要となる。畠山さんが会長を務める紋別アイヌ協会では、数年前から、特別採捕の許可申請をせずに儀式用のサケの捕獲を試みようとしていた。自分たちの民族の儀式のためのサケを獲るのにどうして和人們に伺いを立てなければならぬのか、という歴史的な経緯を踏まえれば至極まっとうな問題提起であった。

紋別でのカムイチェプ・ノミとその後

2019年9月1日、カムイチェプ・ノミの儀式が予定されていた当日の早朝にサケ漁は決行された。舞台は紋別市の中心市街地から少し離れた場所を流れる藻別川の河口。畠山さんとう一人の協会員が丸木舟に乗り込み、前日に仕掛けてあつた網にかかったサケやマスを一匹ずつ舟にあげていく。岸では20名ほどの



カムイチェプ・ノミの際にサケ漁に臨む畠山さんたち。(撮影:筆者)

なくなつてしまつていふことであつた。畠山さんはその後、リハビリ用の病院に転院したが、いまま入院中である。

そして、入院の知らせがあつてから10日ほどたつた頃、新聞で「警察がサケ漁に携わつた二名を書類送検」と報道された。

「めざす会」の発足と署名活動の開始

こうした事態を受けて、平取町二風谷でアイヌの方々による話し合いがもたれた。カムイチェプ・ノミの際に現場にいた貝澤耕一さんが作成していた呼びかけ文に基づき、サケに対するアイヌ民族の権利回復を求める署名活動を開始することが確認され、呼びかけ主体として「アイヌ(ひと)の権利をめざす会」(共同代表:貝澤耕一・萱野志朗・田澤守・OKI・宇梶静江)がその場で発足することとなった。

署名活動の開始にあたり、共同代表の一人である首都圏在住の宇梶静江さんが来札された3月27日に、札幌で記者会見を行った。記者会見には共同代表のうち3名のほか、各地からアイヌの方々も集まつてくれた。署名は紙媒体のほか、ネット署名も並行して集めている。その後の新型コロナウイルス感染症の拡大と自粛要請の中、署名集めもままならない状況が続いているが、息の長い運動として多くの人に賛同の輪が広がってほしいと思う。■

*「アイヌ(ひと)の権利をめざす会」ウェブサイト(<https://kamuycep-project.jp/about/>)から「ネット署名」(change.org)へのアクセスや署名用紙のダウンロードが可能。

甘いはい

——マスコバド糖のおいしさの秘密

(株)オルター・トレード・ジャパン 広報室

スコバド糖はサトウキビを
絞り、ジュースを煮詰め、
攪拌しただけの黒砂糖です。

糖蜜分離や精製を一切していない含蜜糖であるため、サトウキビの風味やミネラル分も残されています。これが黒砂糖独特の風味を生み出している訳ですが、マスコバド糖の味の特徴としてよく聞くのが、国内で出回っている他の黒砂糖に比べて「雑味が少ない、マイルドで後味がすっきり」という声です。

手刈りがもたらす隠れた効果

「砂糖の島」、ネグロスには各地に大規模な製糖工場（シュガー・セントラル）があり、収穫期には工場に向かうサトウキビを満載したトラックが行き交います。こうした近代的な製糖工場が登場する以前につくられていたのがマスコバド糖でした。サトウキビは刈り取った後から品質劣化が始まるので出来るだけ早く加工する必要があります。そのため、かつてはアシエンダ（サトウキビ農園）内にマスコバド糖作りの

作業場がありました。1910年代以降、ネグロス各地で近代的な製糖工場が次々と操業を始め、糖度の高い分蜜糖が主流となると、いつしかマスコバド糖は忘れられていきます。1980年代半ば、ネグロスの人びとの自立を支援するため、マスコバド糖作りを始めた時、ネグロス島内に残るマスコバド糖の加工場はわずかに2軒のみとなっていました。

現在、砂糖の主要輸出国であるブラジル、タイ、オーストラリアは勿論のこと、国内産地の沖縄や鹿児島でもハーベスターという機械を使った収穫が



サトウキビ刈り取り作業。

主流です。一方、ネグロスでは今でも手作業で行われています。炎天下でエスパディンと呼ばれる鎌でサトウキビを刈り取り（タパス）、束ねてトラックに積み込む（カルガ）、タパス・カルガと呼ばれる重労働。働き手は男性です。サトウキビは3メートルほどの高さに成長しますが、根元から刈ったサトウキビの茎を束ねてトラックに積み込むのです。

機械化された産地では、ハーベスターで刈り取ったサトウキビの茎を畑で30センチ程度に切断します。このとき空気に触れる断面から微生物が侵入し、品質劣化が始まります。短く切った分だけ空気に触れる部分が大きくなり、劣化が進行してしまいます。ネグロスでは茎の根元から刈り取り、甘みの少ない茎の先端部や葉を切り落とします。切断面は茎の両端だけです。その分、劣化は抑えられます。

オルター・トレード・社が自前の製糖工場を持っていて、計画的に収穫、製糖できることもマスコバド糖の強みです。ネグロスの一般的な製糖工場では収穫の最盛期ともなると、トラックがサトウキビの積み下ろしのために



製糖工場での攪拌作業。

工場前で数日待つこともあります。マスコバド糖の場合、工場に搬入されたサトウキビは時間をおかずには搾汁出来るようスケジューリングを立てています。工場では搾ったジュースを煮詰めて濃縮、人力で攪拌して粉末にします。一般的な黒砂糖に比べて、マスコバド糖の色が薄目なのは、時間をかけて濃縮していることの証で、それだけ苦味を抑えられます。こうした諸々の要因が、他の黒砂糖とは一味違う特徴を生み出していると考えられます。

甘味料というより万能調味料

マスコバド糖の美味しさを表現するのに「雑味が少ない、マイルドで後味がすっきり」だけでは不十分です。自

チオシはベリーベリーコンです」と話してくださいました。

また、長年ATJのコーヒーとマスコバド糖を扱っている「コーヒー・モルティブ下北沢」店長の及川徹さんはマスコバド糖の味わいについて「コーヒーに入れると、コーヒーの風味をすべて包み込み、「甘味」という旨味で、ただの『甘いコーヒー』を『旨い甘味をもったコーヒー』に変えてしまう」と表現しています。

お二人のコメントは、まさしく吉田さんが指摘する「甘いはい」、「素材の個性を活かし、融和」するマスコバド糖の特徴を裏付けています。最も手っ取り早くマスコバド糖の奥深さを体感したいなら、黒みつ牛乳がオススメです。牛乳に黒みつをまぜるだけ。すると、あら不思議、「銭湯のコーヒー牛乳」のような味わいに。この風味が隠し味として料理を引き立たせてくれるのがわかると思います。皆さんもぜひ万能調味料としてマスコバド糖をキッチンに常備して使ってみてください。

きまぐれや 吉田友則さん

【注1】
「山のハム工房 ゴーバル」
岐阜県恵那市串原3777-3-1
TEL: 0573-52-2085
https://gobar.shop-pro.jp/

【注2】
「コーヒー モルティブ下北沢」
東京都世田谷区北沢2-14-7-1F
TEL: 03-3410-6585
https://www.rakuten.co.jp/maldiver/

02 トマトソース、ピクルスに！

酸味がまろやかに
なります。

05 キャラメリゼに！

香ばしさが深い
旨味となって凝縮し、
クセのない甘さが
後引くスイーツに。

01 黒みつ牛乳

単なる甘味料で
ないことが
一口でわかります。

03 煮物、ローストポークに！

旨味やコクを追加してくれます。

04 パウンドケーキに！

丸い甘さが
引き立ちます。
後味はあっさり。

ら「マスコバド糖親善大使」を名乗るほどマスコバド糖を愛してくれている吉田友則さん（出張料理人、レストランきまぐれやオーナーシェフ）は、マスコバド糖を「天然の旨味調味料」といってはばかりません。そして、単なる甘味料としてだけではなく、調味料として使うことを勧めています。料理に甘さを加える、コクを出したい場合はもちろんのこと、酸味をまろやかにしたい場合にも使えます。しかも、主張しすぎない、ちやうどの塩梅。素材同士の個性を活かし、融和してくれます。料理のジャンルを問わず、和食の煮物にもよく合います。

マスコバド糖は、原料として使っている食品メーカー、パティシエやパン屋さんからも高い評価を受けています。マスコバド糖が初めて輸入された1987年からのお客さんである「山のハム工房 ゴーバル」工場長の田中亮太さんにお話を聞きました。「ハム作りには砂糖は欠かせない食材です。その砂糖にマスコバド糖を使うとハムとの相性がとても良く、甘さの深みを引き出してくれます。特にベーコンは脂の甘み、旨味を引き出してくれます。グローバルのほとんどの商品に使っていてどれも美味しいですが、イ



今号は、通常の特集という形を取る代わりに民衆交易の現場からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する報告をまとめました。誌面づくりの都合上、各報告は6月半ばの情報となっていますが、最新の情報はウェブサイトやSNSなどでも随時更新していく予定ですので、合わせてご覧ください。

先日の総会後に開催した理事会を経て、事務局長に就任しました。COVID-19のパンデミックと共に新たなスタートを迎えましたが、いい意味でも悪い意味でも時代の大きな変換点がやってきていると感じる今日この頃です。日本全国の皆さん、アジア各地でつながっている仲間たちと共に、いのち・暮らしが大切にされる持続可能な社会を築くための行動を起こしていきたいと思ひます。ご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。(野川)

事務局の動き (2020年1月～2020年6月)

1月 9日	目白大学で野川が講義しました。
1月 11日	新宿未来創造財団でコーヒー講座を開催しました。
1月 12日	エコギャラリー新宿でチョコレートワークショップを開催しました。
1月 25日	静岡県職員組合でチョコレートワークショップを開催しました。
2月 1日	新宿未来創造財団でチョコレートワークショップを開催しました。
2月 2日	リサイクル千歳台(世田谷区)でチョコレートワークショップを開催しました。
2月 4日	学芸大学附属高等学校・校外実習で寺田が授業を担当しました。
2月 8日	ATJの30周年記念会に参加しました。
2月 10日～ 20日	寺田がフィリピンに出張しました。
2月 14日	開発教育協議会からの依頼で、フリースペースえん(川崎市)でチョコレートワークショップを開催しました。
2月 23日	神戸スローフードアカデミーで寺田が講演しました。
2月 26日	ザ・モンテッソーリ・スクール・オブ・東京の中部でチョコレートワークショップを開催しました。
2月 29日	理事会・評議員会を開催しました。
3月 4日～ 16日	野川がインドネシアと東ティモールに出張しました。
4月 8日～ 28日	COVID-19拡大防止のため、在宅勤務体制
4月 29日～ 5月 6日	ゴールデンウィーク休業
5月 7日～	COVID-19拡大防止のため、在宅勤務体制および時差通勤
5月 4日	FTSN関東 高校生支部の皆さんからオンラインでインタビューを受けました。
5月 23日	FTSN関東 高校生支部の皆さんとオンラインでチョコレートワークショップを開催しました。
6月 17日	日本農業経営大学校で野川がオンライン講義を担当しました。
6月 24日	日本大学で寺田がオンライン講義を担当しました。

事務局からお知らせ

ネットショップがリニューアルオープン！

ネットショップがリニューアルオープン！ バラ売りの再開、クレジットカード決済にも対応など、民衆交易商品のお買い物物がしやすくなりました。ぜひ新しいショップにご登録ください(ショップのURLは以前と変更ありません)。

APLA SHOP: <https://www.aplashop.jp>

APLA事務局に新しいスタッフが加わりました。

ネットショップ運営のために新しく福島智子さんがAPLA事務局にパートタイムスタッフとして加わりました。どうぞよろしくお願いします！

以下の呼びかけに賛同・協力しました。

●署名「カムイチェブ＝サケに対するアイヌの権利回復を！」

今号のTOPICSで紹介されている同署名について、APLAも呼びかけ賛同団体になっています。オンラインもしくは署名用紙でのご協力をよろしく願ひします。

詳細は→ <https://kamuycep-project.jimdofree.com/>

●3メガバンク株主総会に向けたオンライン国際署名

日本の3メガバンクグループ(三菱UFJフィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ)に対して提出した「石炭火力輸出からの完全撤退」と「パリ協定に整合した脱石炭・脱化石燃料戦略の構築」を求める署名には、世界各国から109団体、2470人の個人が賛同しました。

詳細は→ <https://kamuycep-project.jimdofree.com/>

●外務省への要請文「イスラエルによるヨルダン川西岸地区併合を阻止するための行動を取ることを要請します」に賛同しました。

詳細は→ <https://www.apla.jp/archives/7367>



地域の環境保全のために生産者が中心になってNGOを立ち上げる準備をしており、その中心メンバーと話し合いを持つこともできました。メンバーの中

From South Sulawesi, Indonesia 南スラウェシ

エビ生産者による 環境保全活動が始動

APLAはこれまで、エコシユリンプの産地のインドネシア・東ジャワにおいて、オルター・トレード・インドネシア社(ATINA)および現地NGOのKOTABATUによる環境保全活動をサポートしてきましたが、もうひとつの産地の南スラウェシでもエコシユリンプの生産者が、自分たちの地域の環境保全のために動き出そうとしているという話を聞いて、3月初頭に現地を訪問しました。



緊急支援金で避難キャンプに水のパイプを支援。(左がドンボスコ財団のベッツィー代表)



ドンボスコ財団の敷地内で仮住まいする被災者たち。

From Mindanao, Philippines ミンダナオ

ミンダナオ島コタバト州 の地震被災地を訪問

2019年10月末にマグニチュード6の地震の被害を受けたミンダナオ島のバランゴンバナナ産地のひとつ、マキララ町。同町では、12月15日にもマグニ

チュード6・9の地震が発生しており、関係者に被害はなかったものの、前回の地震で辛うじて残っていた建物にさらなる被害も出てしまいました。APLAは、緊急災害支援準備金から合計3万米ドル(日本円換算で30万6000円)を、マキララ

のバナナの出荷責任団体であるドンボスコ財団に送金していきま

には、両親がエコシユリンプの生産者だという学生もいて、自分が勉強していることを地域のために生かしたい、と頼もしい



立ち上げ予定のNGOの中心メンバーであるエコシユリンプ生産者のシャフルディンさん。

際開発協力庁の資金援助によるプログラム)。記録を取ることに意義や方法についてのワークショップで、農村部の女性にとっては

話を聞かせてくれました。滞在中には、エビ養殖農民の女性たちを対象にしたワークショップを見学する機会もありまし

た(スウェーデン国)。これを第一歩に今後、具体的な計画に寄り添っていく予定です。エコシユリンプのファンの皆さま、どうぞ現地での活動の応援もよろしく願ひします！



集落の脇を流れる川はゴミであふれている。

撮っておきアジア take a shot of Asia.

撮影場所

パレスチナ

Palestine

〔撮影者〕

豊島 洋／とよしま・ひろし
オイシックス・ラ・大地株式会社



01	02
	03
04	05

- 01.....潮干狩りに使う熊手のような道具をつかってオリーブの実をこそぎ落す。収穫された実は葉を除き、日をおかずに搾油所に運ばれる。
- 02.....死海は世界的な観光地で、多くの人が海水に浮く体験をするためにやってくる。塩分濃度が高いため、海に入れる時間が制限されている。
- 03.....パレスチナの市場は、地場産のものとイスラエル産のものが混在。いずれも近隣産地のため、常温で店頭に並んでいる。

- 04.....日本ではあまりなじみがないが、ナツメヤシはパレスチナ自治区の重要な農産物の一つ。大きな実（デーツ）には濃厚な甘さがある。
- 05.....ベツレヘムにある分離壁に描かれた女性は、ライラ・カリドという元パレスチナ解放人民戦線の活動家。眺めているとイスラエル軍のドローンが飛んできて私たちの写真を撮っているようだった。

ハリーナ HALINA

2020年8月号 vol.02-no.45 2020年8月1日発行 頒価 300円(税込)

〔編集・発行〕

特定非営利活動法人 APLA (APLA/あぷら: Alternative People's Linkage in Asia)

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F

〈tel.〉03-5273-8160 〈fax.〉03-5273-8667 〈e-mail〉info@apla.jp

〈URL〉 <https://www.apla.jp>

APLAの活動を応援してください。

月々500円からサポーターになって
APLAとつながる!

APLAでは、会員(年会費5,000円)の他、新たにサポーター制度を導入し、「マンスリーサポーター」と「APLAサポーター」を募集しています。詳しくはwebsiteをご覧ください。リーフレットが必要な方には郵送いたします。

問い合わせ・お申し込み

APLA事務局にご連絡いただくか、下記のwebsiteからお申し込みください。QRコードからもアクセスできます。

<https://apla.secure.force.com/>

